

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02922

研究課題名(和文) Application of the concept of Intercultural Communicative Competence to the development of a multimodal portfolio for Spanish as a foreign language

研究課題名(英文) Application of the concept of Intercultural Communicative Competence to the development of a multimodal portfolio for Spanish as a foreign language

研究代表者

Cecilia N Silva (Silva, Cecilia N)

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：40361208

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：2017-2019研究年度に実施した主な研究テーマは、a)口頭コミュニケーション手法のポートフォリオ作成及びb)異文化間コミュニケーション手法のポートフォリオ作成の2つであった。文献レビューと最新教材評価の結果、スペイン語入門レベルであるA1と初級レベルのA2のポートフォリオ作成に口頭手法と異文化コンテンツの適用が不十分であるとわかった。従って、我々は二つの理論的枠組みの設計に集中的に取り組み、言語学習におけるコミュニケーション手法、異文化間コミュニケーション能力、多様式の3つの概念に基づき、口頭コミュニケーション学習と異文化間コミュニケーションの2種類のポートフォリオ作成を学生に指導した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2017-2019研究年度の成果には、理論と実践の組み合わせ並びにその欠陥に関する研究が含まれており、筆者はこれを口頭コミュニケーション手法及び異文化間能力手法というふたつの視点を持つ多様式ポートフォリオ作成に向けての重要なステップと考える。論文や口頭発表の場でポートフォリオ作成の研究結果を発表する際、筆者は努めてポートフォリオ、多様式、異文化間コミュニケーション能力という適用する主要概念間のバランスを保つようにした。

研究成果の概要(英文)：During the research period 2017-2019, the three main research topics were the following: a) research on the concept of intercultural communicative competence, b) development of a portfolio with an oral communicative approach, and c) development of a portfolio with an intercultural communicative approach. After literature review and evaluation of current material, we found an insufficient application of an oral approach and intercultural issues in portfolio development for Spanish at levels Platform, A1 and Access, A2. Thus, we focused on the design of two theoretical frameworks and managed to develop two portfolios, oral communication and intercultural communication, based on three concepts: communicative approach in language learning, intercultural communicative competence, and multimodality.

研究分野：外国語教育

キーワード：異文化コミュニケーション オーラルコミュニケーション ポートフォリオ 外国語教育

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我々のポートフォリオ作成プロジェクトは 2 種類ある。口頭コミュニケーション及び文化のポートフォリオである。

スペイン語教育分野におけるポートフォリオに関して、注目すべき修士論文が 2 本ある。ひとつはブラジルのセルバンテス・サルバドル語学学校の教師と生徒によるポートフォリオ作成について述べたもので、知識構築過程を示すツールの構築を目的としている(パロンド・プリエゴ、2011-2013)。もうひとつのクエンカ・イ・リポイによる研究(2014)は、教員訓練ツールとしてのポートフォリオの使用について述べたものだ。我々のポートフォリオは A1 レベルの学生の口頭学習を対象として作成しているため、学生が口頭スキルを自己評価するのに有用なツールとなる。

言語教育における文化及び異文化コンテンツに関して、多くのシラバスや指導要領で文化学習の重要性に言及されているものの、依然として実践が不十分であるとバイラムは主張している(2001)。特に A1 の入門者レベルの授業は往々にして、文法、語彙、口頭実習の内容は豊富だが、文化/異文化の側面にはあまり注意が払われていないということがある。これに対して筆者は、言語スキルを応用しながら異文化間コミュニケーション能力を強化できるよう、A1 及び A2 レベルの学生が留学プログラム中に作成するポートフォリオのなかで言語と文化を統合させることを提案している。

上記の点から見て、我々のプロジェクトは独特であると同時に、A1 及び A2 レベルの学生にとって価値が高いといえる。具体的には、a) 毎年、口頭スキルに関するポートフォリオを作成することで、学生は自己の達成度について考察・評価を行い、将来的な目標を定めることができた。b) 目標言語を使用して目標文化の特徴を説明し、自身の文化と比較して両者の違いを考察することで、文化学習と言語スキルの訓練・強化を組み合わせることができた。

2. 研究の目的

本研究にはふたつのプロジェクトが含まれ、ふたつの目的がある。a) 異文化間及び多文化コミュニケーション能力の概念についての研究を行い、言語教育のための異文化間モデルを定めること、b) 東北大学の学生向けの外国語としてのスペイン語授業で行う口頭コミュニケーション及び異文化 - 多文化ポートフォリオの作成に理論的概念とそのモデルを適用すること。口頭コミュニケーション・ポートフォリオ授業プロジェクトの最終目的は、学生に学期中のインプットを振り返らせ、評価させることである。異文化間コミュニケーション・プロジェクトの最終目的は、学生が言語スキルを使用・強化し、異文化テーマに取り組めるようになることである。

3. 研究の方法

異文化間ポートフォリオ・プロジェクト作成にあたり、我々は異文化間コミュニケーション能力のモデル(バイラム、1990)と言語文化学習の発達モデル(ショールズ、2019)というふたつのモデルから抽出した要素を組み合わせた。

バイラムのモデルは次の要素を含む。a) スキル獲得という意味での言語学習、b) 学習者の注意を母語と目標言語間の共通点と相違点に向けさせる要素としての言語意識、c) 文化意識：これ

は言語の非言語的側面に関係する側面であり、目標文化と学習者の文化を比較するための基礎となるものである、d) 文化経験とは教育目的の旅行や留学を通じて得られる直接経験である。

ショールズのモデルには次の要素が含まれる。a) 出会い：学習の第一段階は外国語の手本との出会い、それまで知らなかったこととの最初の接触である。b) 経験：学習者が更なる言語要素を取り入れ、規則の観点から見た外国文化や、行動の理由について考えはじめる。c) 統合：言語を使用するうちに、何らかの理由で、形式より意味とコミュニケーションに神経を集中するようになる。d) 橋渡し：このレベルになると、ふたつの異なる世界観の比較を超え、新しい概念について考えるようになる。

バイラムの出発点は言語と文化の関係であり、ショールズは言語と文化を一体とみなしているため、両モデルを組み合わせれば、文化と言語の様々な側面を広範囲にカバーすることができる。我々は*世界観*という概念を取り入れてモデルを完成させ、2018年、2019年、2020年の2週間留学プログラム中に実施した異文化間コンテンツのポートフォリオ作成にこれを適用した。

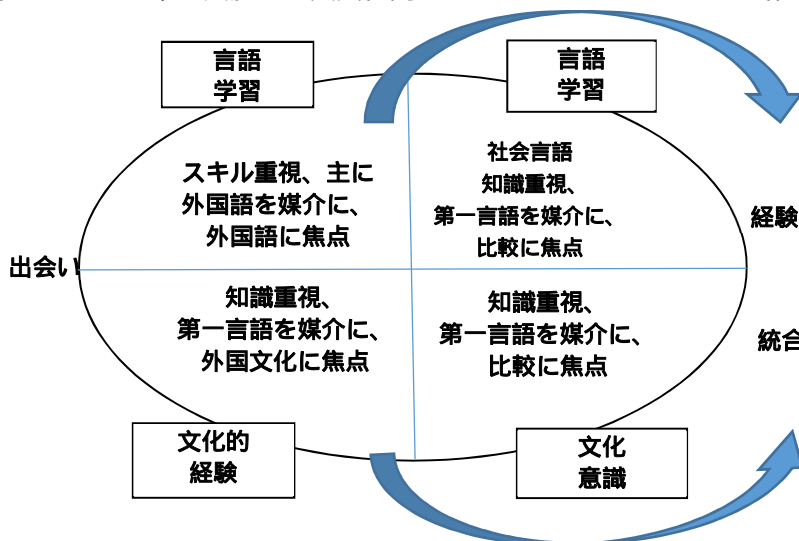


図1. バイラムの異文化間コミュニケーション能力モデルとショールズの言語文化学習の発達モデルの組み合わせ。

口頭コミュニケーション・ポートフォリオ・プロジェクトのために、我々は自己評価、考察及び足場かけに基づくモデルを作成した。研究のため、ポートフォリオでは半期にわたる学生の記録と学習の実例を使用し、能力の発達を示している。これは口頭コミュニケーションの達成度を反映する学生の学習活動の目的をもって体系的に収集したものだ。5年間（2015年と2016年は試験的に実施、本格的実施は2017年、2018年、2019年）にわたり、我々はスペイン語の学生（A1レベル）の口頭学習のデータを収集した。

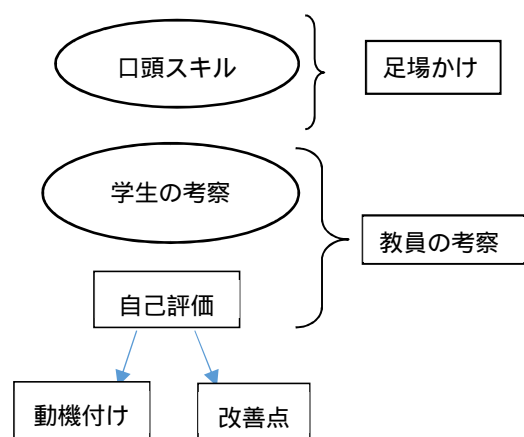


図2. 口頭スキル・ポートフォリオのモデル

それぞれ実施した学期中の学習状況を密接に反映しており、その期間内での学生たちの達成度を示している。ポートフォリオには各学期の5つのテーマを合わせた口頭学習、並びに口頭試問

として実施した最終スピーチ及び対話が含まれる。学生には自分の学習について振り返り、向上度を評価し、将来的な目標を設定することを求めた（図2）。

4. 研究成果

2017-2019 研究年度に実施したふたつの主要研究テーマは以下の通り。a)口頭コミュニケーション学習のポートフォリオ作成。キーコンセプト：足場かけ。b)異文化間コミュニケーションのポートフォリオ作成。キーコンセプト：世界観。

- a) 口頭コミュニケーション学習のポートフォリオ。2017年から2019年にかけて、外国語としてのスペイン語授業を受ける学生（A1レベル、360名）の口頭学習の記録を毎年収集した。学生たちの在籍学部は経済学部、法学部、工学部の3つ。これら収集した学習記録は半期の学習状況を密接に反映しており、その期間内の学生の達成度を示している。ポートフォリオには前期の5つのテーマと、それを最終的に統合した口頭学習が含まれる。各学期の終わりに、学生はポートフォリオを公開し、自身のスピーチと対話を収めたビデオを見て成績について考察し、調査に応じることが求められる。この調査で、学生は口頭コミュニケーションスキル、間違いの訂正法、自信の強化、動機付け、目標、学習戦略について質問を受ける。さらに、学生は自身の学習をチェックし、以下について考察することが求められる。a) 自分の希望と現在の成績の関係、b) 目標達成にどの程度補助教材が役に立ったか、補助教材や学習支援がどの程度十分だと感じたか、わかりやすいか、難しいか、楽しいか、退屈か、学生の状況に密接しているか、あるいはかけ離れているか。

ポートフォリオ評価をして、学生自身が個人的目標とその目標を達成するための計画を決めることで、学生の学習過程への関与が高まることがわかった。今回のプロジェクトでは、教師と補助教員がポートフォリオ作成を管理したが、学生自身がさらに責任感を持ってポートフォリオを作成できるような方法を考案することが可能かもしれない。これは、学生にポートフォリオのテーマを決定させ、コンテンツを選択させるようにするか、責任もってファイルを編集させるようにすれば実現しうると思われる。

ここで、言語学習者のための教育的**足場かけ**についてのよくある質問を取り上げたい。すなわち、言語教育及び学習における足場かけ指導の最新情報についてである。実際、学生の意見に応じて次半期の授業内容や目標設定戦略を調整する必要があるため、学生が足場かけ過程について行う考察が分析されている。学習支援過程において「フェーディング」（もはや必要とされない戦略）の概念を考慮するために更なる調査、観察、分析が必要である。

- b) 異文化間コミュニケーション・コンテンツのポートフォリオ。

これはスペイン語 A1 及び A2 レベルの日本人学生が、開発された理論的枠組みに基づいたアクティビティを伴う、スペインでの2週間集中プログラムについて記述するプロジェクトである。参加者（2018：15名、2019：15名、2020：21名）は文化訪問、ビデオ、日記、調査やスペイン人学生との交流についてのレポートを含むポートフォリオを作成した。学生の**世界観**の変化をレポートするために、我々は3つのレベル - 言語意識、文化的側面及び文化

的体験 - を分析。その結果、食事や学生の習慣といった日常的な側面に関する意識は自然に喚起されるが、行動に関係する文化的詳細といった側面に関しては、学生の考察を呼び起こす刺激剤のようなものが必要であるとわかった。

我々の主張は、教育的交流体験が語学授業で始まる学問及び視野を広げる助けになりうるということである。こういった体験により、ひとりの人間の世界に対する見解、つまり**コスモビジョン**が他者のそれと合流することが可能になる。世界観とは、現状及びあるべき姿の両方の観点から、世界とそのなかでの生活を描写する方法である。いわゆる世界観とは、世界のなかで何を知ることができるか、あるいはすることができるか、どのように知ることができるか、することができるか、人生のなかで考えうる目標とは何か、そしてどのような目標を持つべきかを定める一連の思考である。世界観のなかには立証されていないかもしれない、あるいは利用さえできない前提も含まれるが、こういった前提が思考体系のなかに別の思考を存在させる根拠となる（コルトコ - リベラ、2004）。留学プログラムを成功させるには、異なるコスモビジョンを観察する機会を学生に与える必要があるとファンティニは述べている（2019）。「(前略) 相違について学習することで、我々は地球上の多くの言語文化の基礎にある普遍的な人間性に対する見識を獲得できる」

参考文献

Byram, M. (1990). Teaching Culture and Language: Towards an Integrated Model. In D. Buttjes and M. Byram (Eds.). *Mediating Languages and Cultures: Towards an Intercultural Theory of Foreign Language Education*. Clevedon: Multilingual Matters.

Byram, M., Nichols, A., and Stevens, D. (2001). Introduction. In M. Byram, A. Nichols, and D. Stevens (Eds.). *Developing Intercultural Competence in Practice*. Clevedon: Multilingual Matters.

Cuenca I Ripoll, B. (June 2014). *Portafolio del Profesor en Formación: una Propuesta Práctica para el Desarrollo Profesional*. Master Thesis. Universitat Pompeu Fabra Barcelona.

Fantini, A. (2018). *Intercultural Communicative Competence in Educational Exchange. A Multinational Perspective*. USA: Routledge

Parrondo Priego, J. (2011-2013). *Análisis de la Implantación del Portafolio como Sistema de Evaluación en el Instituto Cervantes de Salvador: Factores que Inciden en su Funcionamiento*. Master Thesis of Training for Teachers of Spanish as a Foreign Language.

Shaules, J. (2019) *Language, culture and the embodied mind*. NY: Springer.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Silva Cecilia	4. 巻 5
2. 論文標題 Portfolio of Oral Communication: Scaffolding in Foreign Language Learning	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第5号	6. 最初と最後の頁 315-323
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Silva Cecilia	4. 巻 3
2. 論文標題 Developing a Portfolio for Self-assessment of Oral Communication	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第3号	6. 最初と最後の頁 285-293
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Silva Cecilia	4. 巻 3
2. 論文標題 Promoting Cultural Interaction in the Classroom	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第3号	6. 最初と最後の頁 295-305
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Beyond the language: developing an intercultural portfolio
3. 学会等名 Seventh International Conference on the Development and Assesment of Intercultural Competence (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Action and reflection in an intercultural portfolio
3. 学会等名 全国語学教育学会・第45回年次国際大会教材展示会(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 The concept worldview within the frame of Intercultural Communicative Competence
3. 学会等名 ECS2019 6th Education Culture Society Conference(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Exploring intercultural awareness in practice
3. 学会等名 THT-BELTA 2019Conference(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Development of an Intercultural and Multimodal Portfolio
3. 学会等名 ASELE 第30回スペイン語教育法学会国際大会(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Applying the Four Cs Framework for integrating Spanish language and art
3. 学会等名 First Tohoku Chapter of 日本CLIL教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Intercultural Competence Activities within the framework of Active Learning
3. 学会等名 ASELE 第29回スペイン語教育法学会国際大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 CLIL 4Cs Framework for Bridging the Gap Between Language and Content
3. 学会等名 日本教育工学会・第34回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Diversity and inclusion of the intercultural dimension
3. 学会等名 全国語学教育学会・第44回年次国際大会教材展示会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Text and Context for Intercultural Practice in the Classroom
3. 学会等名 Multidisciplinary Academic Conference on Education, Teaching and Learning (MAC-ETL 2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Teaching Language with Local Culture from Literature
3. 学会等名 Jalt PanSIG 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Aplicacion de un Modelo Integral de Competencia Intercultural
3. 学会等名 ASELE スペイン語教育法学会第28回大会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 A Scaffolding-based Portfolio in Language Teaching: a Visual Path to Speaking
3. 学会等名 24th International Conference on Teaching, Education & Learning (ICTEL) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Portfolio of Oral Communication: Scaffolding in Foreign Language Learning
3. 学会等名 日本教育工学会第33回全国大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Como actuamos los docentes en el escenario educativo de las TICs
3. 学会等名 日本イスパニア学会第63回大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Construyendo el camino hacia la comunicacion oral
3. 学会等名 全国語学教育学会第43回大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 セシリア シルバ
2. 発表標題 Developing a Short-term Model for Intercultural Practice and Assessment
3. 学会等名 Sixth International Conference on the Development and Assesment of Intercultural Competence（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----